



アンジェス株式会社
2025年12月期 決算説明資料



2026年2月

- ◆ 本資料には当社の現在の見通し、予想、目標、計画等を含む将来に関する記述が含まれています。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとに当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来予想に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績その他の結果は、将来予想に関する記述に明示又は黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。従って、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更又は訂正する一切の義務を当社は負いません。
- ◆ 上記のリスクや不確実性には、当社を取り巻く経済情勢の変化、研究開発の進捗状況、規制当局からの取得承認、国内外各国の制度改正や法規制等が含まれます。

1

2025年12月期 決算の概要

2

2025年12月期 主要トピックス

- ① HGF遺伝子治療用製品
- ② NF- κ BデコイオリゴDNA
- ③ Tie2受容体アゴニスト (AV-001)

3

その他のトピックス

- ④ ACRL 検査事業
- ⑤ EmendoBio社 ゲノム編集技術

01

2025年12月期 決算の概要

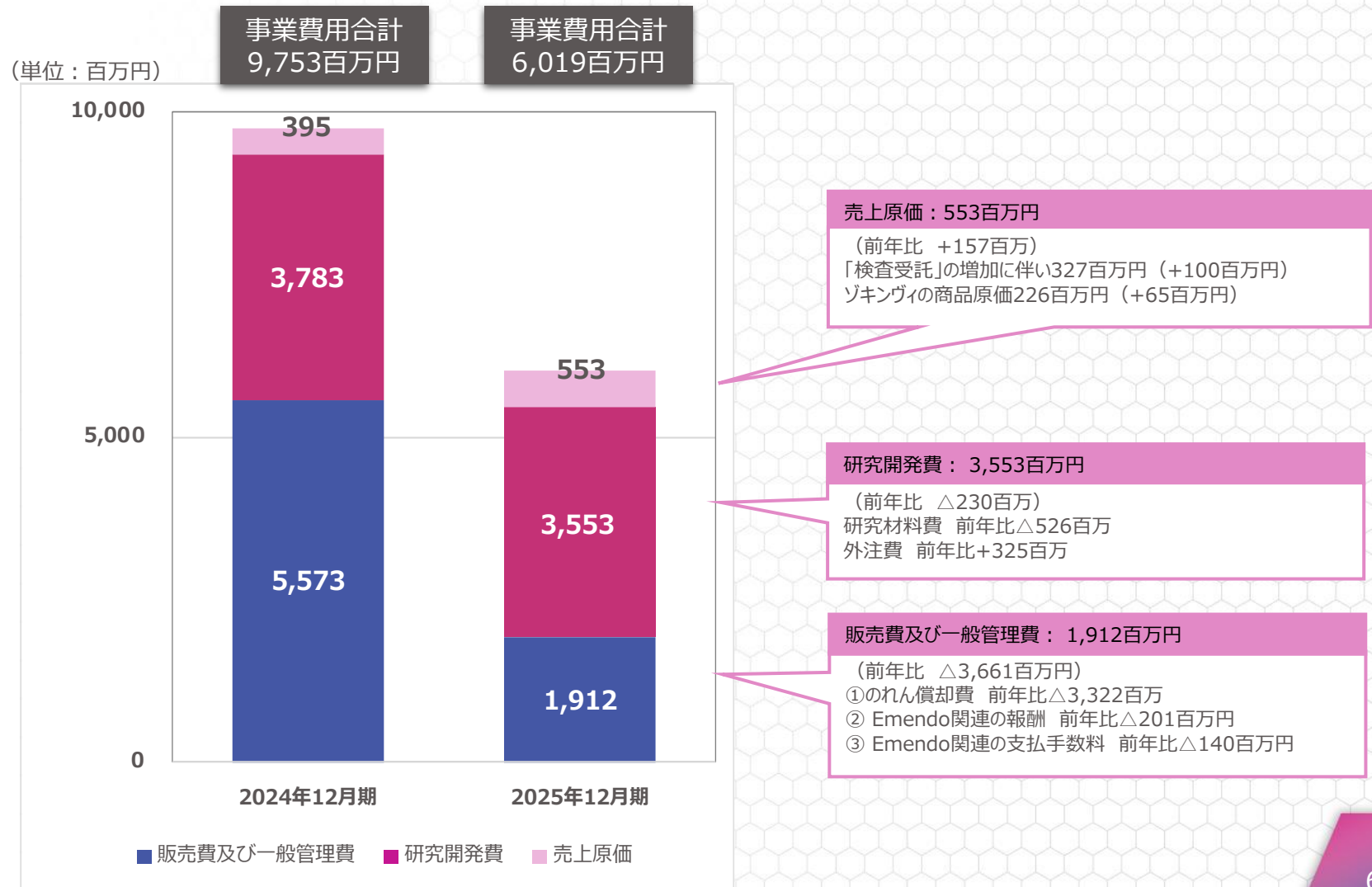
2025年12月期 連結会計期間の業績

(単位：百万円)

	2024年12月	2025年12月	増減	2025年12月 見通し	2025年12月 実績	増減
事業収益	643	874	230	880	874	-5
事業費用	9,753	6,019	△3,733			
営業損益	△9,109	△5,145	3,964	△6,270	△5,145	1,124
営業外収支	1,571	△143	△1,714			
経常損益	△7,537	△5,288	2,249	△6,290	△5,288	1,001
特別損益	△20,105	52	20,158			
当期純損益	△28,128	△5,123	23,005	△6,320	△5,123	1,196

- ・当期の事業収益の増加は、検査受託サービスの受託数の順調な増加による
- ・前年度の「のれん」の償却が無くなり事業費用は大きく減少、それに伴い営業損益も改善
- ・前期ののれんの減損処理による特別損失が無くなることにより当期純損益は大幅に改善

事業費用の内容



連結貸借対照表 ハイライト

(単位：百万円)

	2024年12月末	2025年12月末	増減
流動資産	3,542	4,386	843
うち現金及び預金	1,707	1,882	174
固定資産	1,125	1,019	△106
総資産	4,668	5,405	737
負債	2,512	2,329	△182
純資産	2,156	3,076	919

流動資産

- 現預金 1,882百万円 (前年度末比+174百万円)
資金調達5,939百万円
- 原材料及び貯蔵品 (+308百万円)
- 製造委託費として前渡金 (+295百万円)

固定資産

- 固定資産 1,019百万円 (前年比△106百万円)

負債

- 買掛金 542百万円 (前年度末比+235百万円)
- リース債務 流動負債 (△109百万円)
固定負債 (△108百万円)

純資産

- 資本金 (+2,972百万円)
資本剰余金 (+2,973百万円)
- 当期損失による利益剰余金 (△5,123百万円)

2026年度通期業績見通し

(単位：百万円)

	事業収益	営業損益	経常損益	当期純損益
2026年度 通期 計画	1,330	△10,230	△10,240	△10,250
2025年度 通期 実績	874	△5,145	△5,288	△5,123
増減	456	△5,085	△4,952	△5,127

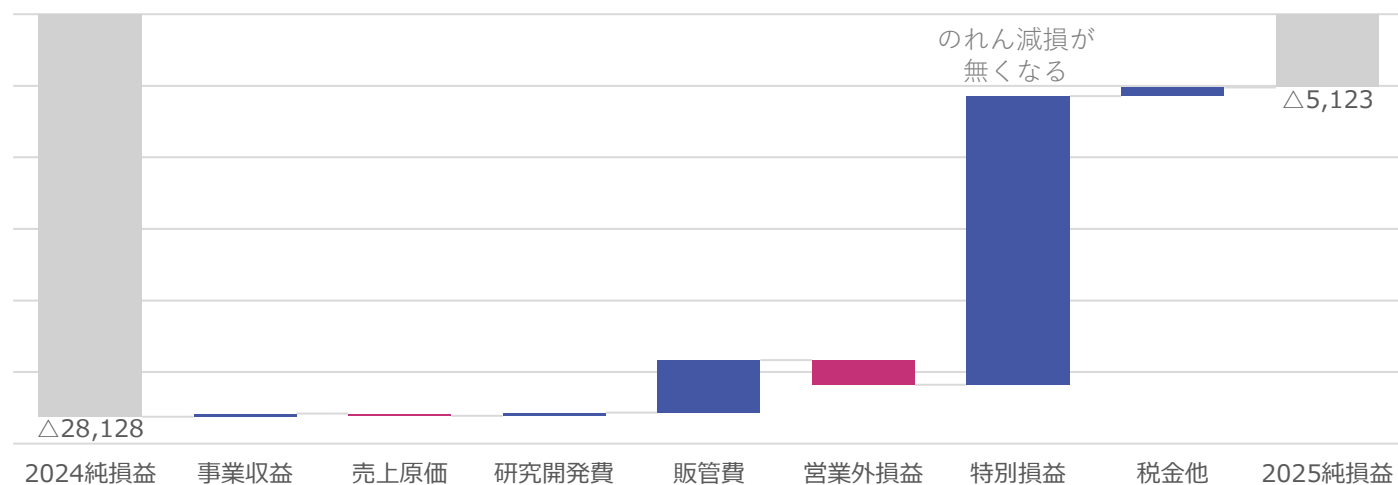
2026年度 通期業績見通しのポイント

- ・ ゾキンヴィの販売が増加する計画
- ・ ACRLにおける拡大新生児スクリーニングの受託数は微増
- ・ HGF遺伝子治療用製品の米国での申請準備のための費用が増加
- ・ HGF遺伝子治療用製品の原薬製造費用が発生

当期純損益の増減要因

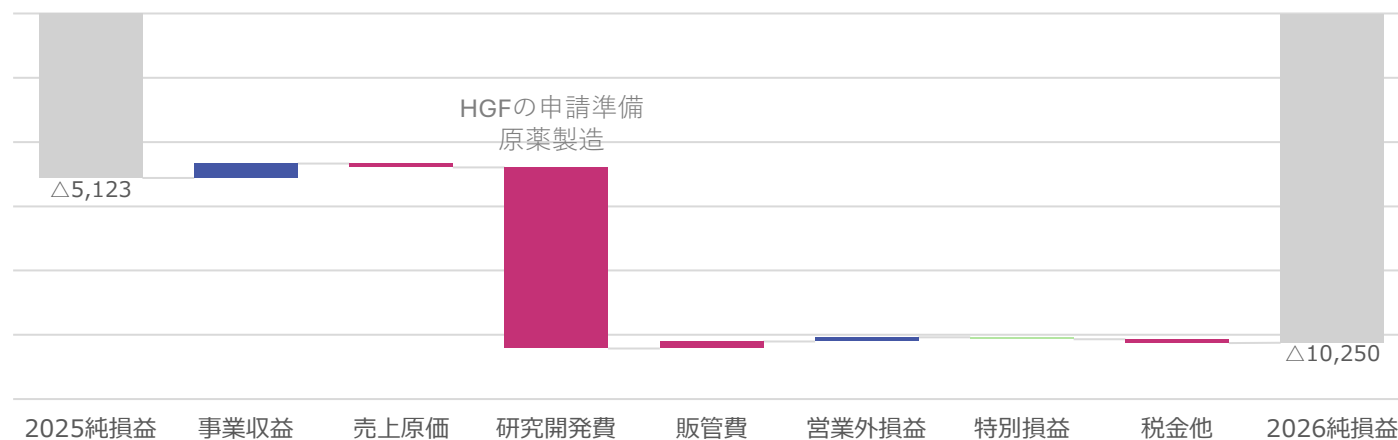
2025年度実績増減要因（2024年度比）

単位：百万円



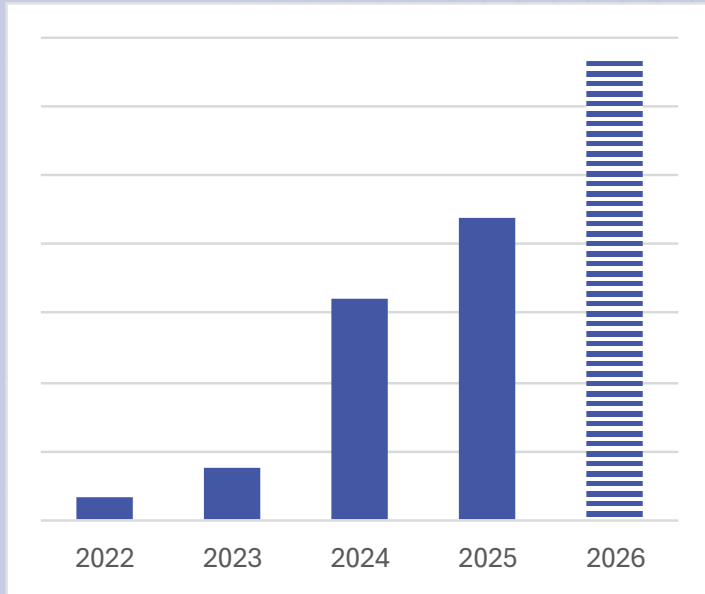
2026年度計画増減要因（2025年度実績比）

単位：百万円



事業収益

※2026年は計画

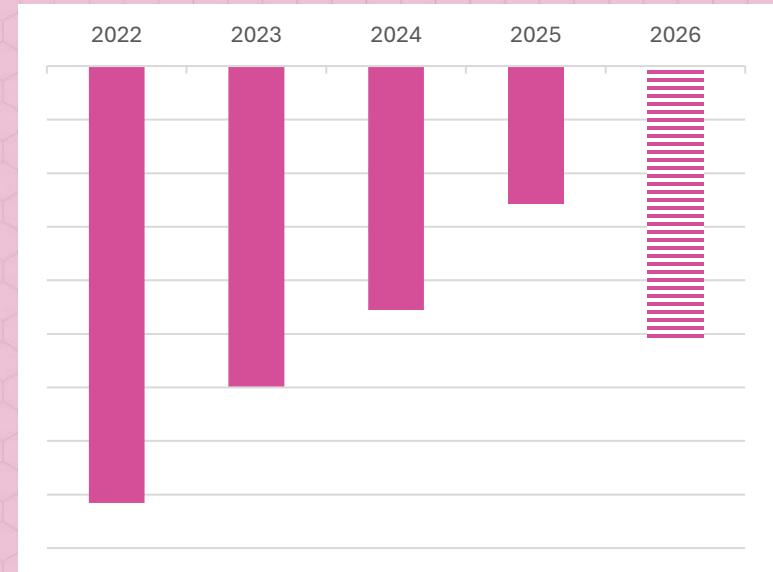


事業収益は増加

- ・ゾキンヴィの販売が増加
- ・ACRLにおける拡大新生児スクリーニングの受託数は微増
- ・EmendoBio社の契約に伴うライセンス料

営業損益

※2026年は計画

営業損失は米国での
申請準備により一時的に増加

- ・HGF遺伝子治療用製品の米国でのBLA申請準備のための費用と上市後の製品のための原薬製造費により研究開発費が増加

02

2025年12月期 主要トピックス

当社開発プロジェクトの状況

プロジェクト	地域	導出先 提携先	剤形	適応症	基礎研究	非臨床 試験	臨床試験（治験）			申請 審査	承認
							第Ⅰ相	第Ⅱ相	第Ⅲ相		
HGF遺伝子治療用製品 （ベベルミノゲンベラスミド）	日本	－	注射剤	慢性動脈閉塞症						米国の進捗を見 ながら検討	
	米国	－	注射剤	包括的高度慢性 下肢虚血 （CLTI）						BLAに向けた 準備を開始	
	イスラエル トルコ	Kamada Er-Kim	注射剤	慢性動脈閉塞症							
NF-κBデコイオリゴDNA	日本	－	注射剤	慢性椎間板性 腰痛症							
DNAワクチン	オーストラリア	－	注射剤	高血圧							
Tie2受容体アゴニスト	米国	Vasomune	注射剤	急性呼吸窮迫 症候群（ARDS）							

1

HGF遺伝子治療用製品の進捗

2

NF- κ BデコイオリゴDNAの状況

3

Tie2受容体アゴニスト(AV-001)の状況

1

HGF遺伝子治療用製品の進捗

2

NF- κ BデコイオリゴDNAの状況

3

Tie2受容体アゴニスト(AV-001)の状況

HGF遺伝子治療用製品の2025年の主な進捗

トピック① 米国での開発方針決定

米国後期第Ⅱ相臨床試験の良好な結果を受けてFDAとの協議を重ね、臨床試験を完了とする米国での早期承認に向けて生物製剤認可申請(BLA)の準備を進める

トピック② 上市後の原薬製造・供給体制の確立

世界有数の医薬品及びバイオ医薬品製造企業である
ベーリンガー・インゲルハイム・バイオフーマシューティカルズ社と製造に関する協業開始

トピック③ 米国での第II相臨床試験 結果を論文発表

米国での第Ⅱ相臨床試験の良好な結果を
米国心臓学会の権威ある学術誌『Circulation: Cardiovascular Interventions』に掲載

トピック④ FDAと臨床に関する申請方針に合意

米国FDAと、BLA申請に向けたType “B” Clinical Meetingを実施し
臨床に関する申請方針についてFDAと合意

上市後の原薬製造・供給体制の確立

世界有数の医薬品及びバイオ医薬品製造企業である
ベーリンガー・インゲルハイム・バイオフーマシューティカルズ社と
製造に関する協業開始



契約締結日 2025年8月20日

パートナー ベーリンガーインゲルハイム BioXcellence™
(世界有数のバイオ医薬品CDMO)

内容 HGF遺伝子治療用製品の原薬に関する受託開発・製造契約

意義 世界45品目以上の商用製品供給実績を持つトッププレイヤーとの協業
FDA承認取得に向けたCMC情報の信頼性を担保

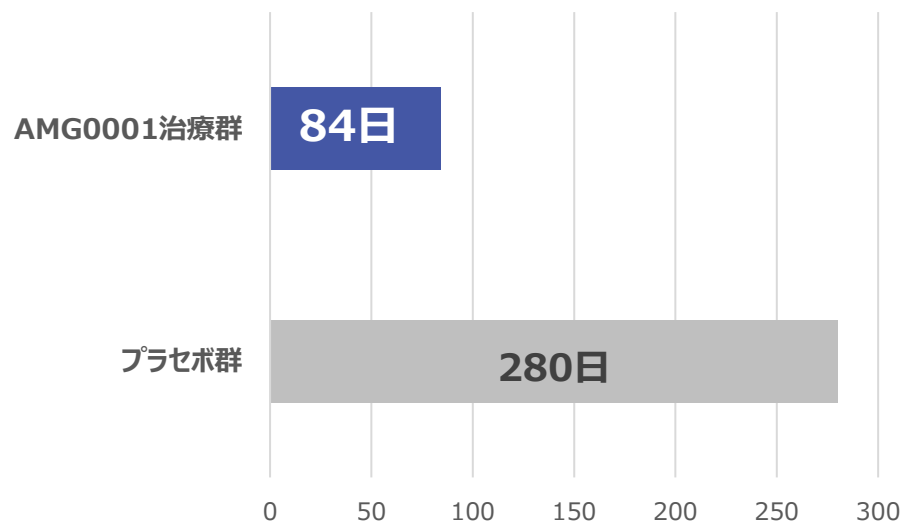
米国での臨床試験結果を論文発表

米国での第Ⅱ相臨床試験の良好な結果について

米国心臓学会(AHA)の「Circulation: Cardiovascular Interventions」にて論文掲載

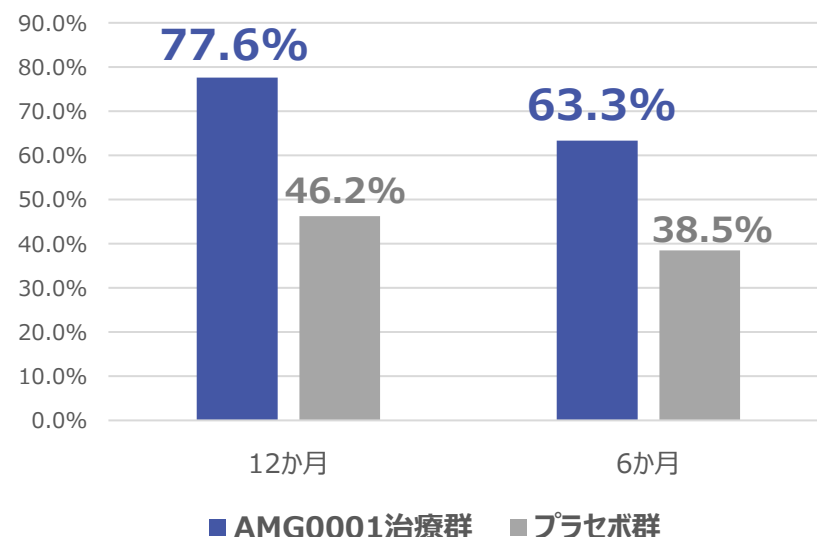
治癒までの期間（中央値）

中等度のCLTI患者の
潰瘍完治までの期間を有意に短縮



治癒した潰瘍の割合

中等度のCLTI患者への
高い有効性を実証



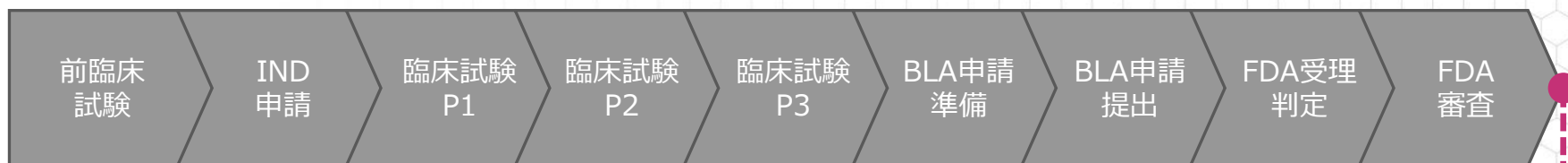
※Circulation: Cardiovascular Interventionsとは

米国心臓学会（AHA）が発行する、心臓や血管の病気に対して、カテーテルなどを用いて行う低侵襲な治療法を研究・実践する医療分野である心血管インターベンション分野に特化した査読付きの学術雑誌です。冠動脈疾患、構造的な心疾患、血管疾患に関するインターベンション技術に焦点を当て、原著研究、ランダム化試験、大規模レジストリ研究を重視しています。

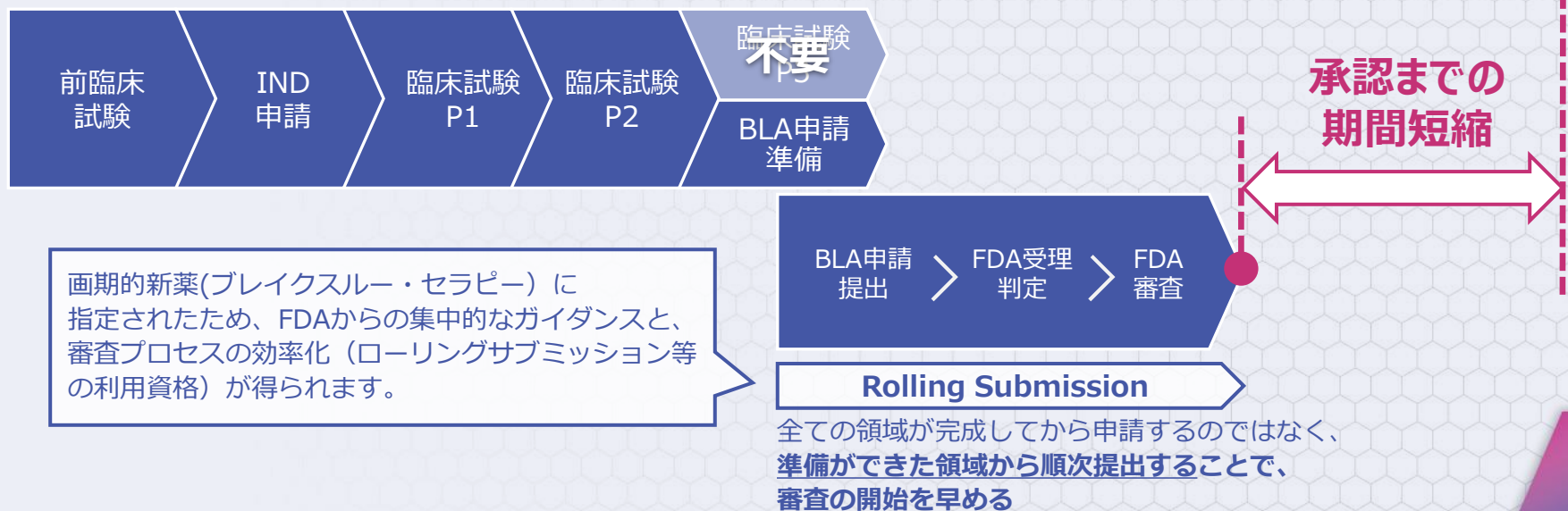
FDAにおける生物製剤の申請プロセス

米国後期第Ⅱ相臨床試験の良好な結果を受けてFDAとの協議
臨床試験を終了とし、生物製剤認可申請(BLA申請)を目指す

通常の生物製剤の申請プロセス



HGF遺伝子治療用製品の申請プロセス



米国後期第Ⅱ相臨床試験の良好な結果



臨床試験を終了（P3をスキップ）

上市後の供給体制の整備を進める

生物製剤認可申請(BLA申請)の準備を開始

(ブレイクスルー・セラピーの指定により早期の審査が可能)

Type B Clinical Meetingで申請方針に合意

**2026年中に
Rolling Submissionによる
審査開始を目指す**

1

HGF遺伝子治療用製品の進捗

2

NF- κ BデコイオリゴDNAの状況

3

Tie2受容体アゴニスト(AV-001)の状況

北米脊椎学会（NASS）が発行するThe SPINE JOURNALに
米国で椎間板性腰痛症の患者を対象に実施した
後期第Ⅰ相臨床試験の結果についての論文が掲載

10mg投与群では

- ・ 臨床試験に参加した患者の**77.4%**で痛みが軽減し
半数で痛みがほぼ完全に消失
- ・ 椎間板の高さが、投与前から改善していることから
傷んだ椎間板の回復を示唆

現在実施中の国内第Ⅱ相臨床試験は
2026年中の登録完了を目指す

1

HGF遺伝子治療用製品の進捗

2

NF- κ BデコイオリゴDNAの状況

3

Tie2受容体アゴニスト(AV-001)の状況

Tie 2 受容体アゴニスト (AV-001)

急性呼吸窮迫症候群 (ARDS) の治療薬として
前期第Ⅱ相臨床試験を米国で実施中

計画した症例数の登録を完了し脱落分の追加登録を実施中

2026年第1四半期での登録完了を目指す

FDAよりFast Trackに指定

- ・ FDAとのより頻繁な会議やコミュニケーション
- ・ 迅速承認と優先審査
- ・ 申請書類を段階的に提出し審査を受けることが可能

AV-001の今後の展開

新たに医師主導試験として
血液透析によって引き起こされる認知機能低下をまねく
細胞毒性による脳浮腫を軽減し脳の白質の機能維持を評価する

末期腎不全患者の最大 90%が血液透析を利用



混乱、せん妄、長期的な認知機能低下といった症状を引き起こす
特に55歳以上の患者では70%が中等度から重度の認知障害を引き起こす

カナダ心臓・脳卒中財団より助成を受け
透析中に大きな循環ストレスを受ける脳血管の安定化を目指す

AV-001の対象疾患を
すべての疾患に拡大する契約を締結

03

その他のトピックス

4

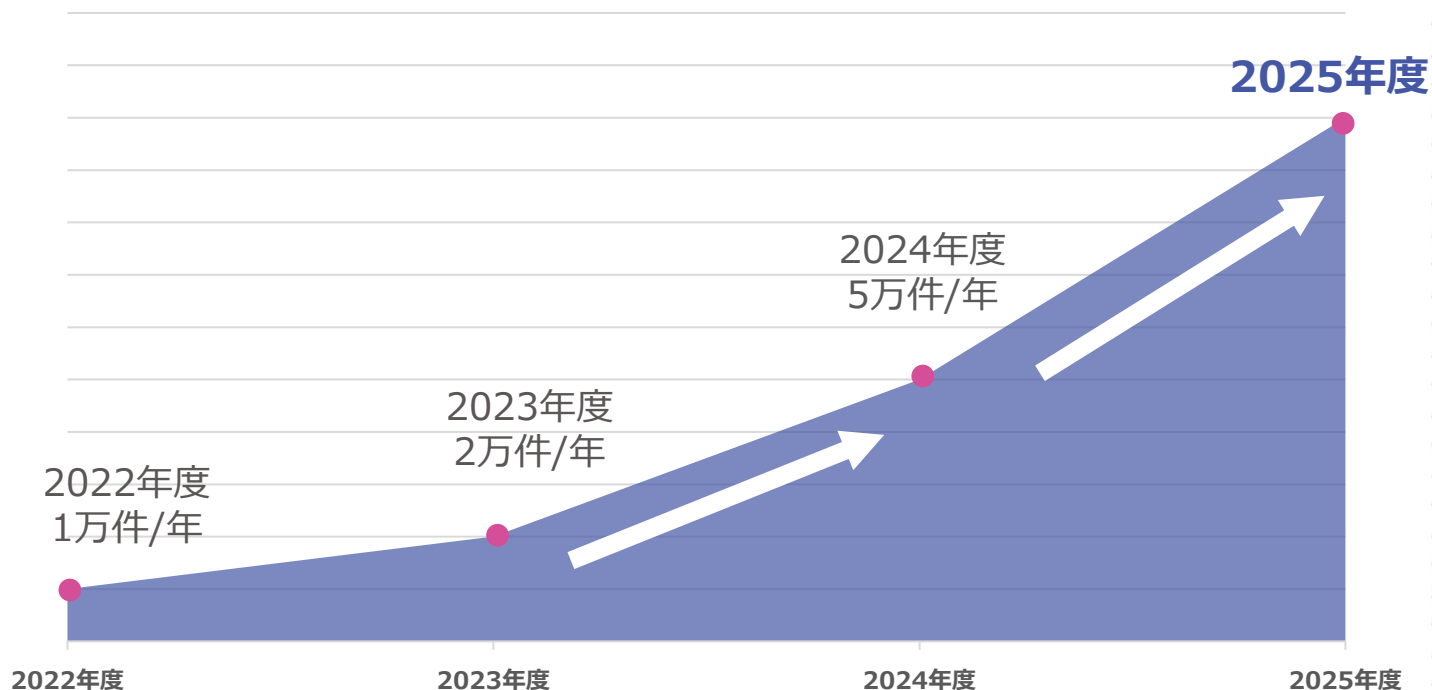
ACRL 検査事業の状況

5

EmendoBio社のゲノム編集技術をライセンス

拡大新生児スクリーニング検査の状況

拡大新生児スクリーニング検査数は継続して増加中
2025年度は約9万件を受託



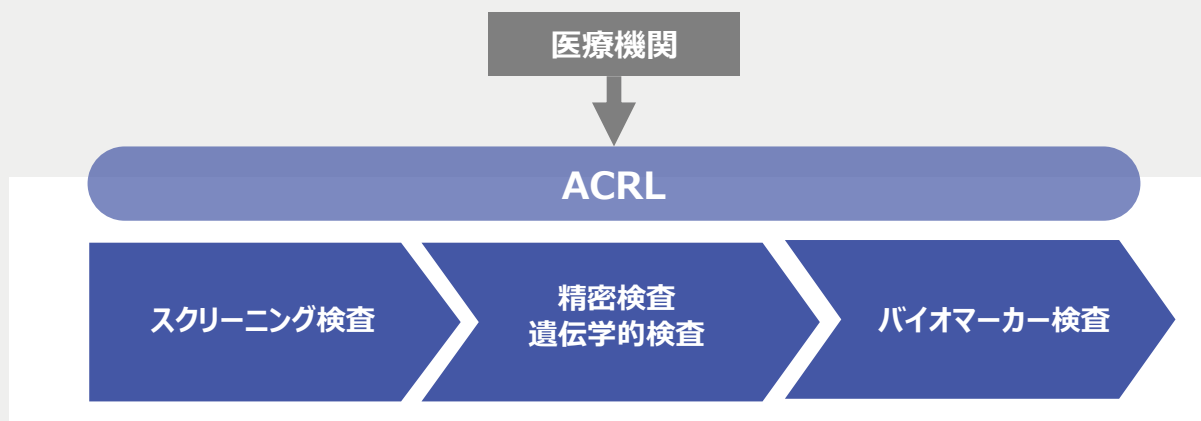
引き続き、受託先の拡大と検査対象疾患の拡大に取り組む

希少遺伝性疾患検査をワンストップで

ライソゾーム病ではスクリーニングで偽陽性※が多く発生
家族や医療関係者の負担が大きい

偽陽性を選別するため
バイオマーカー検査を二次スクリーニングとして活用する
検査方法を開発し受託を開始

ACRLでは希少遺伝性疾患に関する各種検査を
一貫して提供できる体制を構築



※偽陽性とは…病気ではないのに、スクリーニング検査結果が陽性と判定されること

その他のトピックス

4

ACRL 検査事業の状況

5

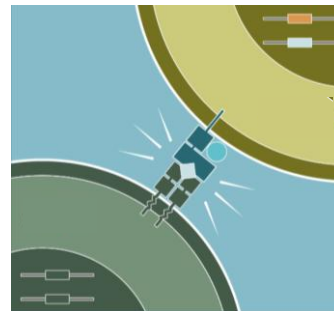
EmendoBio社のゲノム編集技術をライセンス

EmendoBio社ライセンス契約内容

2024年にスウェーデンのAnocca社と契約した OMNIヌクレアーゼの非独占的使用権の 適応範囲を広げる契約を締結

がん細胞特異的な抗原を認識する人工T細胞（TCR-T細胞）を作製

Anocca社は様々ながんに特異的TCR受容体ライブラリを保有しており
EmendoBio社のOMNIヌクレアーゼを使って患者のT細胞に対象となるがんのTCR受容体遺伝子を組み込み、TCR-T細胞を作製する



スタンフォード大学との共同研究

EmendoBio社が開発したOMNIヌクレアーゼを使用し
スタンフォード大学と新規がん治療法の共同研究開発を開始

EmendoBio

従来型のCas9よりも正確で
効率的なゲノム編集が可能な
OMNIヌクレアーゼ

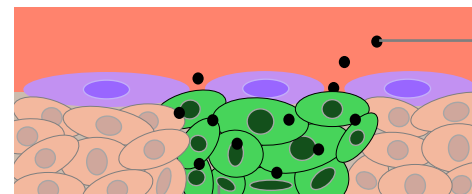


emendo^{bio}

+

Stanford University

がん組織特異的に薬剤を
送り込む技術



薬剤

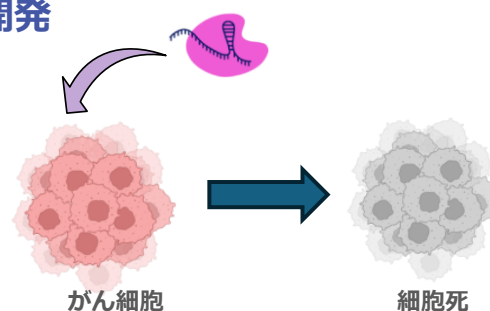
がん細胞



乳がんを標的とした新規がんゲノム編集治療法の開発

スタンフォード大学では、がん組織特異的薬剤送達技術、がん放射線療法及びがん免疫療法等の新しいがん治療法の開発において先進的な研究を行ってきております。EmendoBio社のOMNIヌクレアーゼを使ってがん細胞特異的にゲノム編集を行い、がん細胞の治療抵抗性を低下させることにより、がん細胞のみを死滅させる治療法を開発します。

OMNIヌクレアーゼ



がん細胞

細胞死

04

補足資料

HGF遺伝子治療用製品

HGF遺伝子治療用製品とは？

遺伝子治療とは

特定の遺伝子を患者の体内に入れて
その遺伝子から作られるタンパク質の働きによって病気を治す治療法

HGFとは

肝細胞の増殖を促す物質

1984年、日本にて、最も再生能力の高い臓器である肝臓から一つの成長因子が発見されました。
その因子は、肝細胞増殖因子（Hepatocyte Growth Factor : HGF）と名付けられ、肝臓のみならず、血管、リンパ管、神経など生体の様々な臓器・組織の形成・再生において主要な役割を果たしていることがわかりました。

HGFには、血管を新生する能力があることを発見

1995年、大阪大学の森下竜一教授らの研究チームにより
HGFに「血管を新生する」能力があることが発見され、血管が詰まり血流が悪くなっている虚血性疾患に対し「血管を新生する」というこれまでにない
作用を有する治療薬「HGF遺伝子治療薬」の開発が始まりました

※「血管を新生する」とは、血管を新しく増やすこと。新生(新しく作る)していくことで、血管が再生されていく。

重症下肢虚血の5年後の死亡率

重症下肢虚血とは

米国の南カリフォルニア大学のアームストロング博士によると
米国での重症下肢虚血の患者の5年後の死亡率は57%であり、
肺がんの死亡率80%に次いで高い重症な疾患

重症下肢虚血についてもがん治療と同様に
早期に治療を開始することが重要

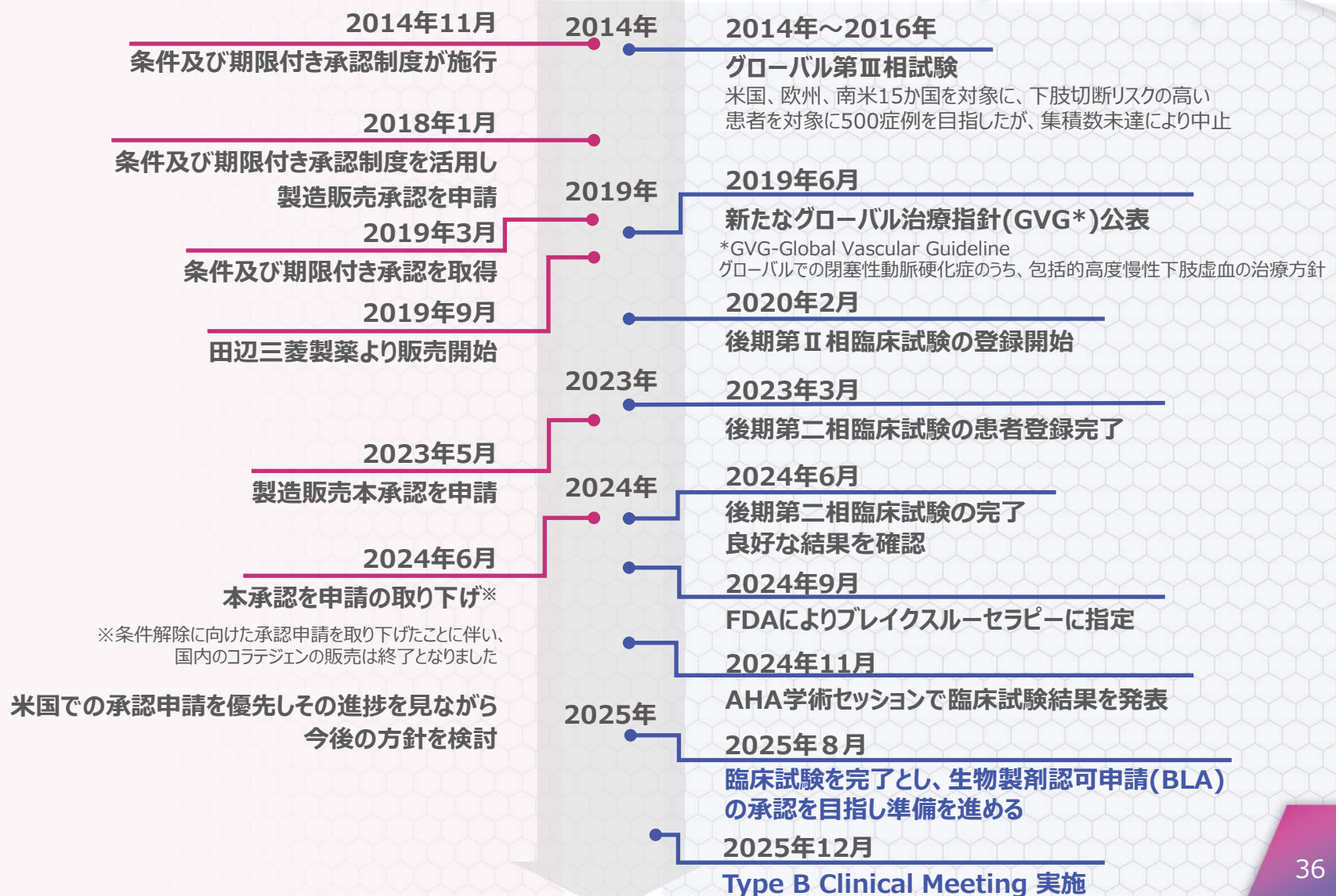
下肢切断リスクの低い慢性動脈閉塞症の患者を対象として
後期第Ⅱ相臨床試験を実施

米国心臓学会発行の「Circulation: Cardiovascular
Interventions」誌に主導医師の論文が掲載

HGF遺伝子治療用製品の振り返り

<日本>

<米国>



HGFの日本と米国における臨床試験の範囲

臨床試験の指導医の「重症化する前の患者を治療することが重要」というアドバイスにより
米国ではCLTIの軽度から中等度の患者を対象として後期第Ⅱ相臨床試験を実施

慢性動脈閉塞症／末梢動脈疾患

その他血流障害(虚血)など

ASO（閉塞性動脈硬化症）

CLTI（包括的高度慢性下肢虚血）



【軽度から中等度】



【重度】（重症下肢虚血）

日本国内の臨床試験
における対象患者

閉塞性動脈硬化症の潰瘍のある
重度下肢虚血の患者を対象としていた

米国の臨床試験
における対象患者

臨床試験の指導医のアドバイスにより
CLTIの軽度から中等度の患者を対象に
臨床試験を実施

NF- κ BデコイオリゴDNA

NF-κBデコイオリゴDNAの仕組み

■ 核酸医薬品としての特徴

NF-κBデコイオリゴDNAは、人工的に作られた短いDNAです。従来の低分子医薬や抗体医薬とは異なり、病気の原因となる遺伝子の働きを直接コントロールできる次世代の核酸医薬品です。

■ 作用メカニズム：遺伝子の「おとり」

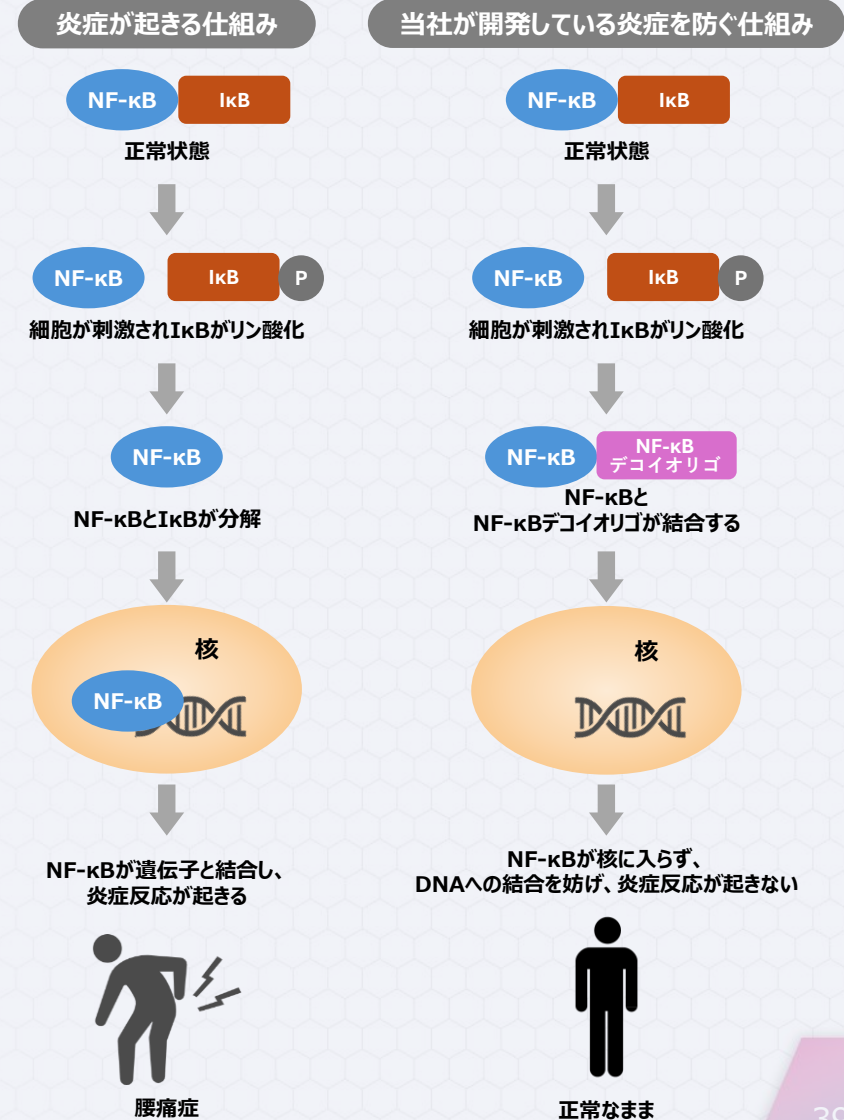
通常、体の中では「DNA→RNA→タンパク質」の流れで情報が伝わります。本製品はその名のとおり、遺伝子のスイッチをだます「おとり（デコイ）」として機能します。

- ・ 異常な遺伝子の働きを停止
- ・ 病因タンパク質の合成を阻害

■ 慢性椎間板性腰痛症への適応

椎間板の損傷や変性により、核内へ移行したNF-κBが特定のDNA配列に結合することで、炎症性サイトカイン（IL-6、TNF-α等）が過剰に発現します。

本製品を投与することで、NF-κBが本物のDNAへ結合するのを防ぎ、免疫・炎症反応を根本から抑制します。



Tie 2 受容体アゴニスト (AV-001)

Tie 2 受容体アゴニスト (AV-001) とは

カナダのバイオ医薬品企業である**Vasomune社**と**共同開発**を進めている、
Tie2受容体アゴニスト

急性呼吸不全など血管の不全を原因とする疾患を対象に
2020年より米国において第 I 相臨床試験を実施し、安全性と忍容性を確認

Vasomune社とは

Vasomune Therapeutics, Inc.は、
血管漏出に対する体内の防御機能を高める
次世代医薬品の開発を行う、
2014年設立のカナダのバイオ医薬品企業

Vasomune社は、血管の正常化戦略に注力し、
主力候補であるAV-001を基礎研究から臨床応用へと
進めてきました。

血管機能障害及び血管漏出は、細菌性及び
ウイルス性肺炎、ARDS、敗血症、出血性ショック、
急性腎障害、脳卒中、血管性認知症など、
さまざまな疾患に関与しています。

Tie2受容体とは

■ Tie2受容体

血管の内側（内皮細胞）に存在するタンパク質の受容体。
主に血管を安定させ、漏れにくくする司令塔のような働
きをします。具体的には：

- ・血管のバリア機能を維持
- ・内皮細胞同士の結合を強化
- ・炎症や血管漏出を抑制
- ・血管を「壊れやすい状態」から「健康な状態」へ保つ

■ アゴニスト

受容体に結合して、その受容体を
「働かせる（活性化する）」物質のこと

ARDSとは

■ ARDS（急性呼吸窮迫症候群）とは

肺が急激に強い炎症を起こし、うまく酸素を取り込めなくなる重症疾患です。致死率は約30～40%と高く、集中治療室での管理を要します。

■ 病態：「肺が水浸しになる状態」

肺の急激な炎症によって肺胞と血管の壁が壊れ、血液成分などが漏れ出しやすくなります。その結果、肺胞内に浸出液がたまる「肺水腫」が起こり、酸素が血液へ届かなくなることで激しい息苦しさを生じさせます。

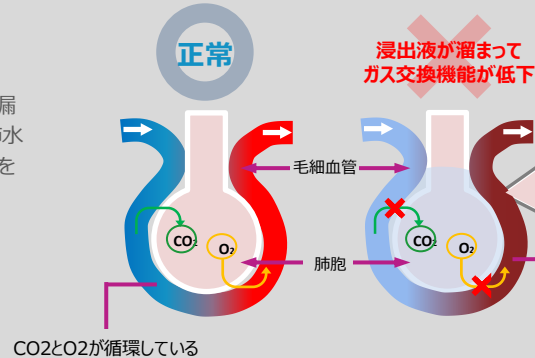
■ 現在の標準治療（対症療法）

有効な特異的治療薬は存在せず、以下の管理が中心となります。

- ・呼吸・体位管理：人工呼吸器の使用、うつ伏せにする等
- ・薬物療法：ステロイドによる炎症の抑制
- ・水分調節：体内の水分量の調整（補液管理）

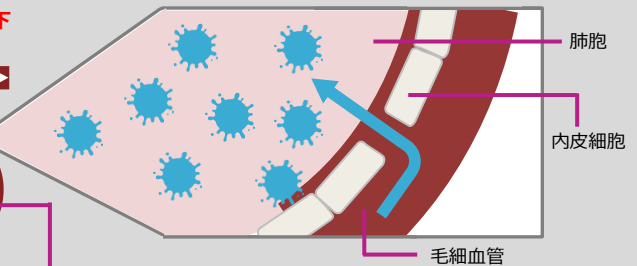
肺胞の拡大図

肺胞におけるガス交換の比較図



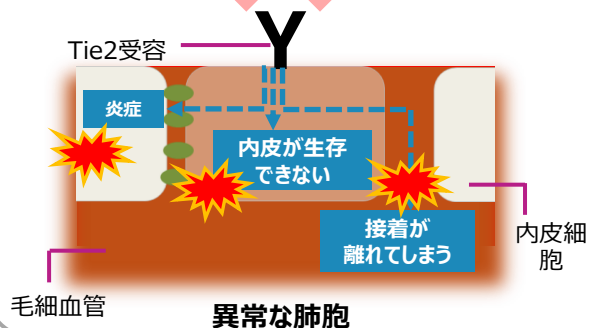
肺胞のさらなる拡大図

内皮細胞が離れてしまうことにより、肺胞に浸出液が入り込んでしまう。

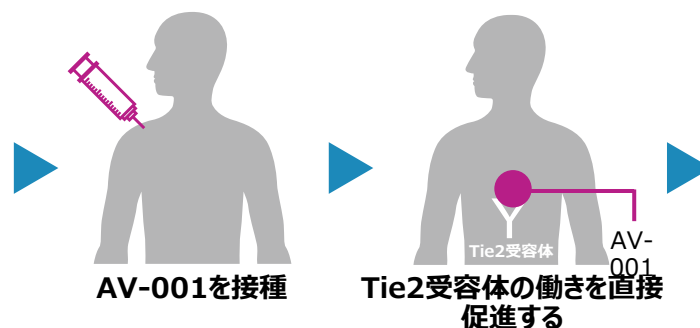


AV-001のメカニズム（血管の生理機能の維持・回復）

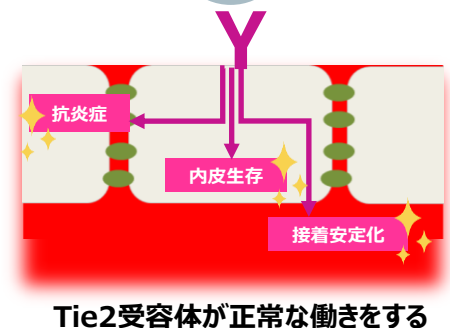
Tie2受容体の働きが抑制されることにより、内皮細胞が離れてしまい、肺胞に浸出液が入ってしまう



AV-001を投与することにより、Tie2受容体の働きを正常な状態に戻す



AV-001により、Tie2受容体の働きが正常になる



ゾキンヴィ

ゾキンヴィについて

ハッチンソン・ギルフォード・プロジェリア症候群(HGPS)及び
プロセシング不全性プロジェロイド・ラミノパチー(PDPL)の治療薬

対象疾患

乳児早老症といわれる、「HGPS」と「PDPL」

早老症とは、老化の徴候が実際の年齢よりも早く、全身にわたってみられる疾患の総称
実年齢よりも老化が進む症状が見られるため“早老症”と呼ばれる
HGPSの平均年齢は、14.5歳と報告されています

有効性

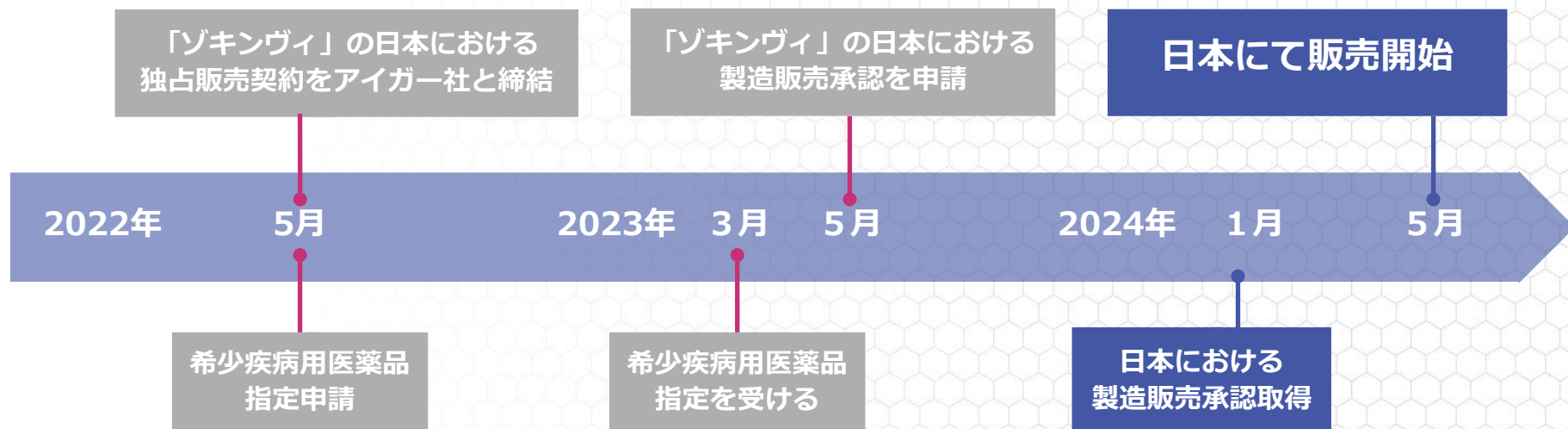
ハッチンソン・ギルフォード・プロジェリア症候群（HGPS）の
患者において、**死亡率を72%減少**させ、
平均生存期間を4年程度延長させるというデータがあります

安全性

多くのHGPS患者が10年以上にわたってゾキンヴィ治療を継続しており、
報告された副作用は嘔吐、下痢、悪心などが多く、そのほとんどが軽度又は
中等度

ゾキンヴィについて

2024年5月27日 販売開始



ゾキンヴィ(ロナファルニブ)



【薬価】

左 91,796.40円/50mg (1カプセル)
右 136,544.00円/75mg (1カプセル)

【効能、効果又は性能】

ハッチンソン・ギルフォード・プロジェリア症候群及び
プロセッシング不全性のプロジェロイド・ラミノパチー

<用法及び用量又は使用方法>

ロナファルニブとして開始用量115 mg/ m²
(体表面積)を 1日2回、朝夕の食事中又は食直後に経口投
与し、4カ月後に維持用量150 mg/m²(体表面積)を1日2
回、朝夕の食事中又は食直後に経口投与する。
なお、患者の状態に応じて適宜減量する。

アンジェスクリニカルリサーチラボラトリー (ACRL)

アンジェスクリニカルリサーチラボラトリーとは (ACRL)



希少遺伝性疾患検査を主目的とした衛生検査所

アンジェスクリニカルリサーチラボラトリー

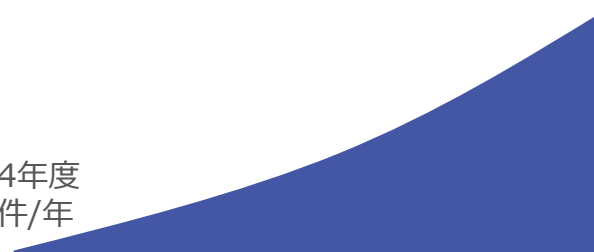
拡大新生児スクリーニング検査業務を受託



©三輪晃久写真研究所

2025年度
9万件/年

2024年度
5万件/年



今後は、**受託先を拡大**
検査対象疾患の拡大に取り組む

新生児を対象とした検査

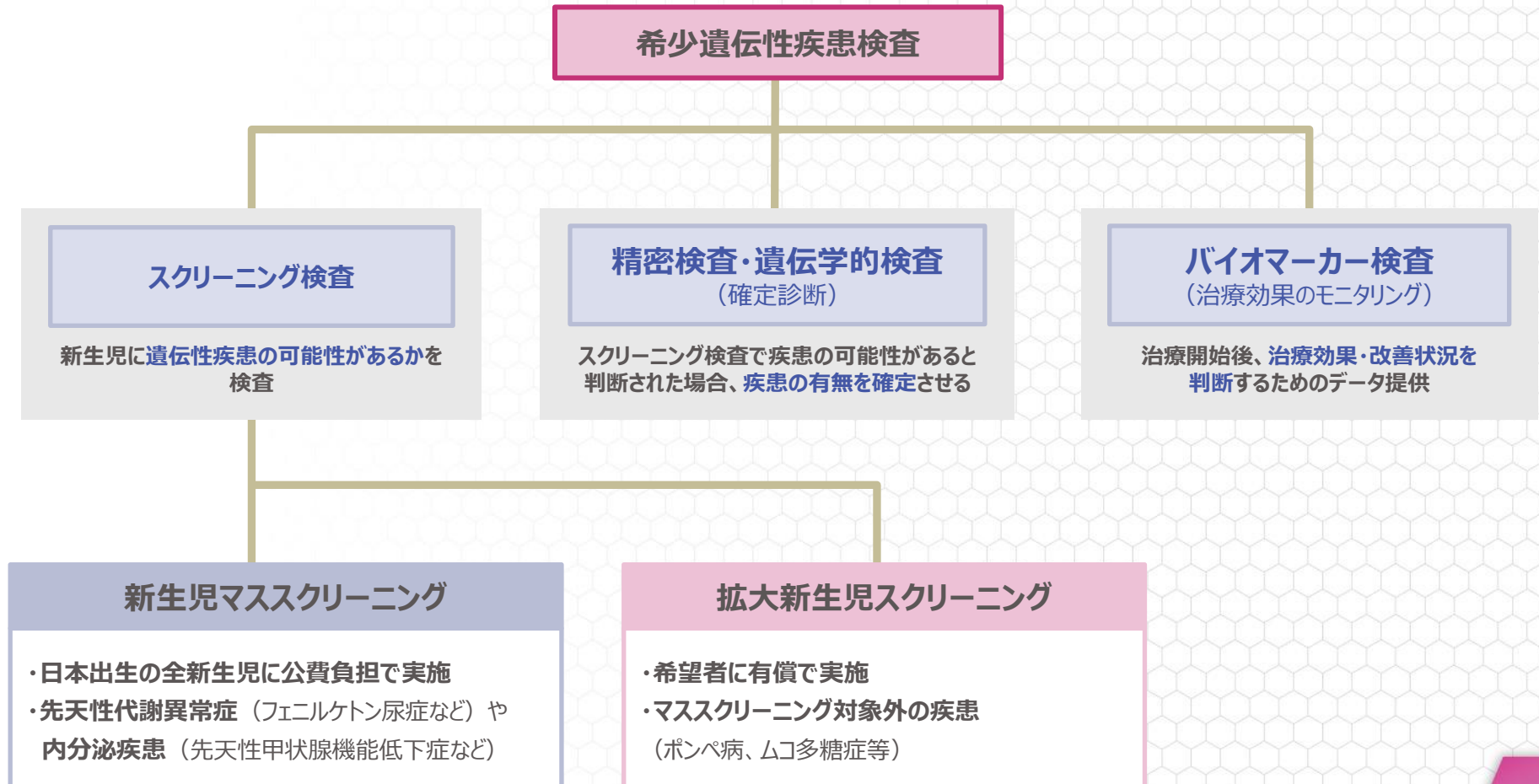
新生児マス・スクリーニング（公的マス）

- ・ 日本出生の全新生児に無償で実施
- ・ 先天性代謝異常症（フェニルケトン尿症など）や内分泌疾患（先天性甲状腺機能低下症など）

拡大新生児スクリーニング

- ・ 希望者に有償で実施
- ・ マススクリーニング対象外の疾患（SMA、SCID、ポンペ病、ムコ多糖症等）

希少遺伝性疾患検査には、
「スクリーニング検査」・「遺伝学的検査」・「バイオマーカー検査」があります。



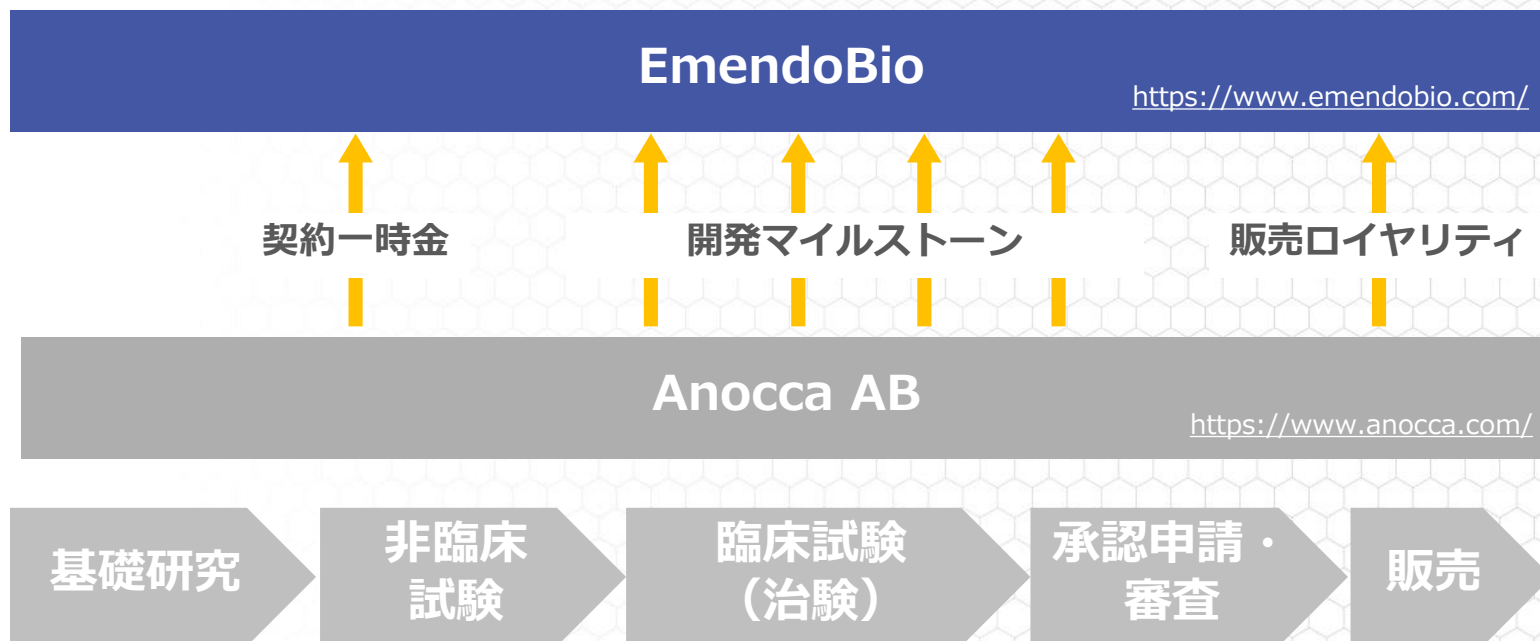
EmendoBio社

EmendoBio社ライセンス契約内容

2024年3月14日

EmendoBio社がスウェーデンのAnocca社とライセンス契約

(EmendoBio社が開発したゲノム編集のためのOMNIヌクレアーゼの非独占的使用権の供与)



TCR-T細胞による治療

Anocca社は、EmendoBio社が開発したOMNIヌクレアーゼを使用し
固形がんのKRASタンパク質変異を標的としたTCR-T細胞療法の開発を進める

EmendoBio

従来型のCas9よりも正確で
効率的なゲノム編集が可能な
OMNIヌクレアーゼ

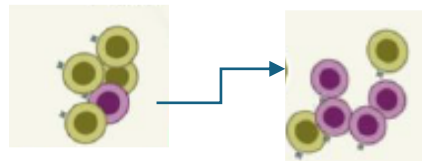


emendo^{bio}

+

Anocca AB

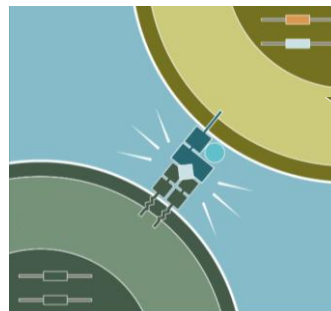
特定の抗原を認識するTCRを
発現するT細胞を選別、
培養する技術



anocca

がん細胞特異的な抗原を認識する 人工T細胞（TCR-T細胞）の作製

Anocca社は様々ながんの特異的TCR受容体ライブラリを保有しており
EmendoBio社のOMNIヌクレアーゼを使って患者のT細胞に
対象となるがんのTCR受容体遺伝子を組み込み、TCR-T細胞を作製する



免疫療法について

患者さん自身が持っている免疫細胞の一つであるT細胞を採取して
がんと戦うように強化して体に戻す治療法



患者さん自身の免疫細胞が元となっているため
正常な組織が攻撃される心配がない

血液のがん

造血組織の異常によって発生したもの
かたまりを作らずに増える
(白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫など)



CAR-T細胞治療法

CAR-T細胞療法はキメラ抗原受容体を遺伝子改変技術によりT細胞に導入し、体外で増殖させて患者に輸注する治療法です。CAR-Tは血液がんでは大きな成功を収めていますが、細胞表面の抗原しか認識することができないため、固形がんには適用するには課題があります。

固形がん

がん細胞が集まってできたもの
かたまりで増える
(膵がん、肺がん、大腸がん、食道がんなど)



Anocca AB

TCR-T細胞治療法

EmendoBio

細胞内に存在するがん関連抗原を認識するTCR受容体を発現させた人工T細胞（TCR-T細胞）はCD19 CAR-Tに代表される血液腫瘍を狙ったCAR-Tとは異なり、**固形がん**への適用が可能です。
手術不能な難治性固形がんに対する副作用の少ない治療法として大きな注目を集めています。

遺伝子の力を活用し
すべての人に治療の機会を届けます



アンジェス ホームページ
<https://www.anges.co.jp>